

【評価実施概要】

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社静内ケアセンター		
事業所名	グループホーム栗ちゃんの家		
所在地	日高郡新ひだか町静内ときわ町3丁目12-25 (電話)0146-45-0023		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(21年3月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18人	常勤	8人, 非常勤 10人, 常勤換算6.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	平屋建ての 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(3月6日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名	
要介護1		要介護2		6	名	
要介護3	7名	要介護4		4	名	
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	82.9歳	最低	70歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田クリニック・静和会石井病院・静仁会静内病院・山口歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム関連の広い敷地を『福祉村』と呼び、共同生活支援ハウス・認知症対応型通所介護とともに、このグループホームがある。地域福祉を目的に先行的運営を志向している。平屋建ての2ユニットは渡り廊下で繋がっており、利用者の歩行運動にも効果を上げている。広い浴室は車イスでも十分なスペースがあり、随所に手すりが付けられ機能的で介助しやすい作りになっている。全職員はターミナルケアを大切に、ベットをリビングに移動し、寂しさを感じさせず、安心できるように24時間体制で見守り、最期まで最善を尽くした介護をし、家族から感謝され、葬儀もホームで執り行うなど発展的な活動をしている。運営理念を念頭に利用者の思いを大切に、共に楽しみ・喜び・支え合いながら一日一日をゆったりと過ごしており、今後さらに期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題は、全職員で取り組み検討した。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各ユニットごとに職員全員で行い、カンファレンス会議で話し合い、管理者がまとめ仕上げた。サービス評価の意義や目的を全職員で共有し、評価結果を基にサービスの質の向上に努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には、地域住民・自治会役員・利用者家族・地域包括支援センター職員・ホーム職員等が参加し、行事予定と報告・健康管理・防災計画・事故事例・地域との交流、ホーム内行事見学等、地域密着型事業所としてのサービスの質の向上と、事業所の運営に活かしている。会議の案内・議事録は、家族に送付して理解を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時の会話の中から希望・要望・意見・苦情等を聞いている。家族の思いを受け入れ、ケアに反映するようになっている。職員は家族との交流や話し合いを大切に、苦情は記録するとともに運営推進会議に反映し適切に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、自治会行事に参加して密度の濃い関係を進めていて、毎日の散歩・買物時・外出時の挨拶等でも地域の人々と積極的に交流し支えられている。地域住民は運営推進会議に出席する等、ホーム行事にも参加している。

## 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中で親しい人達との交流をしながら、自由わががまに暮らしたいとの思いを念頭に『ゆっくりした、流れの中で 楽しく 一緒に認知症であっても 普通に生活できること』と事業所独自の理念を作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングの見やすいところに掲示している。毎日の出勤時の唱和に始まり、常に確認しながら日々のケアに生かしている。会議・ミーティング・社内研修などで、全職員が共有し、実践に向け取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会行事に参加している。毎日の散歩・買物・外出時の挨拶等でも地域の人々と積極的に交流している。地域住民は運営推進会議に出席する等、ホーム行事に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットごとに職員全員で行い、カンファレンスで話し合い、管理者がまとめ仕上げた。サービス評価の意義や目的を全職員で共有し、評価結果を基にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には、地域住民・自治会役員・利用者家族・地域包括支援センター職員・ホーム職員等が参加し、行事予定と報告・健康管理・防災計画・事故事例・地域との交流、ホーム内行事見学等、地域密着型事業所としてのサービスの質の向上と、事業所の運営に活かすとともに、会議の案内・議事録は家族に送付している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所の運営や事故報告などで、町の担当者とは連絡を密にし連携は取れており、パートナーとしての認識で、ケアの質の向上に取り組んでいる。広域連合とは情報の共有を行っている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>機関紙『栗・岡ちゃんだより』を発行し、ホームでの様子を報告している。家族との連携を大切にし、来訪時には日々の暮らしぶりや健康状態等を詳しく伝えている。金銭管理については、毎月使用明細を報告しサインを得ている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時の会話の中から希望・要望・意見・苦情等を聞いている。家族の思いを受け入れ、ケアに反映するようにしている。職員は家族との交流や話し合いを大切にし、苦情は記録するとともに適切に対応している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着率が良く、離職はほとんどない。法人内の異動は職員のスキルアップの為に良い効果を上げており、利用者へのダメージを防ぐ配慮は十分している。利用者とのユニット間の交流は日常的に行われているので、馴染みの関係を構築している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の技術研修は管理者が中心となり週1回実施し、全職員の資質向上に努めている。他に外部研修にも積極的に参加し、参加後は報告書を作成し全職員が共有出来るようにしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管内のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会・勉強会を通じ交流している。また他のグループホーム職員の研修の受け入れ、事業所内行事に招待している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>いきなり生活が始まるのではなく、事業所見学から始まり、ショートステイ・デイサービス利用等で、徐々に馴染めるように工夫し信頼関係を構築してから、入居となるよう配慮している。また家族と相談し、昔からの生活慣大切にしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の希望・要望を大切にし、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にしている。常に尊敬の念を忘れずに感謝の気持ちを持つよう心掛けている。一人ひとりの希望に沿った支援が出来るように、気候の良い時は外で食事をしたり、他のユニット・共同生活支援ハウス・デイサービスの入居者と交流したり、自由に過ごせるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者に寄り添う時間を大切にし、日常の様子や会話から、希望・要望を記録し、個々の思いや意向を把握し本人本位の生活ができるように努めている。利用者の生活歴を把握し、得意分野を表出できるよう取り組んでいる。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃の関わりの中から、より良く暮らすためのニーズや希望を汲み取っている。定期的なカンファレンスで、心身の状況、生活能力を考慮し、利用者、家族の意見を反映した介護計画を作成している。センター方式を使用したアセスメントを行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度ケアプランの見直しを行っている。毎日の状態を詳細に記録し、一人ひとりの状態に即したケアプランを作成している。変化が生じた場合はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>日常的な散歩・買い物・通院時の送迎・家族の宿泊等は本人・家族の状況に応じ、事業所の多機能性を活かし柔軟な支援をし、個々の満足度を高めるように努力している。ホームの広大な敷地内で『福祉村』を実現し、地域の人とも交流している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回の訪問診療を受けており、医師・看護師とは緊急時や相談等、いつでも連絡がつく体制が出来ている。利用者の希望により、かかりつけ医にも、職員が付き添い受診している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナルケアを行っている。重度化した場合や終末期のあり方については、主治医や家族と共に話し合いを繰り返し、方針を共有して対応についての確認を取っている。終末期には、リビングに利用者のベットを移動し24時間体制で見守り介護を行っている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れずに接している。一人ひとりの誇りや羞恥心を大切にし、プライバシーを損ねる事がないように注意している。記録等の取り扱いも、慎重に管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の決まり事はなく、基本的には自由に過ごしている。本人のその日・その時をどう過ごしたいかを把握し、散歩・買い物・入浴等も希望に合わせ柔軟に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみとなるような季節感のある食事を提供し、準備・盛り付け・後片付け等、個々のペースに合わせ、職員と一緒に楽しみながら行っている。各ユニット毎に調理専門職員が配置され、介護職員は介護に専念している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や要望を聞き、気持ちよくゆっくり入浴が出来るよう支援している。週2～3回の入浴希望が多いが、希望があれば毎日の入浴にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・配膳・後片付け・掃除等、利用者の経験・知識を発揮する場面を作り設定している。体操・唄・踊り等の楽しみや気晴らし事、自治会行事参加等も、本人と相談し支援している。2ユニット間で日常的に交流しているので、馴染みの関係が出来ており合同開催の行事も多い。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるよう、日常的に散歩・買い物・公園散策・ドライブ外出等している。敷地内にはディサービス・生活支援ハウスがあり、多くの人と交流し変化に富んだ生活を支援している。行事も多く、温泉宿泊旅行も実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は玄関の鍵は掛けていない。外出傾向の利用者の行動は抑制せず共に外出し、散歩・買い物等で十分納得してから戻ってくる等、個別対応をしている。常に気配り・目配りで「見守り支援」に取り組み、自由な暮らしを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練は年2回実施。消防署の協力のもと避難経路の確認、消火器の使い方、設備点検も行われている。地域の協力体制も運営推進会議を通じて自治会に依頼している。災害時対応マニュアル、緊急連絡網を作成している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、カロリー・栄養バランス・塩分摂取に気を配り、食欲が出るよう見た目にも美しく盛り付けしている。一人ひとりの身体・咀嚼・嚥下状況にあわせた食事を提供している。		栄養バランス等については専門家によるチェック体制がないので、一度、地域の管理栄養士に、メニュー点検をしてもらうような工夫を希望する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたキッチンからはリビング・玄関・トイレ・洗面台が見渡せ、リビングからは各居室が見渡せるよう機能的に作られている。共用空間の壁には利用者の作品や行事写真が飾られ、トイレ・浴室・廊下には手すりが効果的に配置されている。日常生活の匂いや音（食事作りや掃除）で五感を刺激し、温度・湿度・採光に気を配り、清潔で快適な居住空間を作っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には、スタッフ手作りの表札が掛けられ温かい雰囲気大切にしている。居室には、使い慣れた家具・調度品・生活用品を各家庭から持参し、写真や人形を飾り、安心して心地よく過ごせるように配慮・工夫している。		

 は、重点項目。